

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
67

振興協議会だより

〔発行日〕 令和6年6月28日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



日本地球惑星科学連合2024大会に参加しました

2024年5月25・26日、千葉県の幕張メッセで開催された日本ジオパークネットワークの運営会議や地球惑星科学連合大会のジオパークセッションに室長を含めた事務局職員で参加してきました。

1日目の午前中は、Mine秋吉台ジオパークによるユネスコジオパーク国内推薦プレゼンテーションと三好ジオパーク構想による日本ジオパーク申請プレゼンテーションが行われました。午後は、日本ジオパークネットワーク運営会議が開催され、報告事項等の内容で情報を共有しました。今年度、全国大会は、青森県の下北半島ジオパークで開催されますが、その詳細も発表がありました。また、「審査」をテーマに参加者が、必要性を議論するグループワークとして、ネットワークを繋げていくこと、様々な立場の方の考えや審査のあり方について意見交換が行われました。

2日目は、「ジオパークとサステナビリティ」をテーマにしたポスターセッションが実施され、苗場山麓ジオパークから仲野専門員が「苗場山麓ジオパークにおけるジオ学習とその成果」と題し、ポスター発表を行いました。また、6年前に津南中等教育学校を卒業した生徒さんが大学院生として参加しており、会場で声をかけてくれました。地域の子もたちに向けて、これまで実施してきたジオ学習が確実に定着し、次世代に伝わっていると言える嬉しい出来事でした。

また、セッションでは、「気候変動について考えよう」をテーマに、議論されました。このテーマは、苗場山麓ジオパークでも、日本ジオパーク認定10周年記念事業として10月に講演会を開催する予定です。温暖化による「環境変動」は、大きな話ですが、夏の暑さ、農作物の不作、洪水などの水害、雪の降雪など、実は身近なテーマでもあり、皆さんと一緒に考えていければと思います。



セッションの様子



今からでも遅くない！始めてみませんか？

皆さんは『リープ ノー トレース』を知っていますか？「足跡を残さない」という直訳のとおり、アウトドアの遊びのフィールドである環境に対して、活動中も活動後も影響を最小限にして楽しもう、という世界でも用いられている環境プログラムです。そういった環境負荷を最小限にするためのテクニックは、7つの原則を基にしており、誰にでもわかりやすく、そして楽しく実践することができます。

この考え方や取組を苗場山麓ジオパークにも浸透できないかと思い、株式会社信州アウトドアプロジェクトで、NPO法人Leave No Trace Japanの役員でもある吉田理史さんにご協力いただき、5月18日（土）



吉田理史さん



フィールドでの様子

にさかえ倶楽部スキー場を会場にワークショップを開催しました。

今回は一般向けということで実際にジオガイドとして活動されている方を中心に呼びかけ参加いただきましたが、ガイドや野外活動だけでなく、日常生活においても始められる取組です。まずは7つの原則について知るところから始めてみませんか？そして、苗場山麓ジオパークでも広めていきませんか？

今秋には子ども向けのワークショップも予定していますので、ぜひご参加ください！

Leave No Trace Japan



公式ホームページ



苗場山麓ジオパークガイド認定証授与式・総会を開催しました

第9回目となる苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）を令和6年2月24日（土）に実施しました。受検者20名のうち、見事16名が合格されました。これにより認定ガイド総員は106名となりました。特筆する点は、合格者の中に小学生2名（現5年生）が含まれていることです。小学校の総合的な学習の時間（校外学習）でジオパークを学んだことにより、受検しようという気持ちが芽生えたようです。是非とも学校内でジオパークの話題を広め、より多くの受検を希望する人たちが増えるきっかけとなることを期待しています。



また、十日町市と津南町で3年に1度開催されている「大地の芸術祭」のサポーター（こへび隊）7名が合格者の中に含まれていることも注目すべき点です。芸術祭で、苗場山麓エリアの秋山郷を舞台に作品が紹介されると言うことで苗場山麓ジオパークの認定ガイドを志望し、合格を得て仲間入りを果たされました。大地の芸術祭関係者も苗場山麓ジオパークを知るとともに、苗場山麓ジオパークガイドも大地の芸術祭の内容を紹介できるように、情報を共有し、双方が利点を共有する「Win Win」の関係が高められる活躍を期待したいところです。

4月27日（土）、津南町総合センターで、新たにガイドになられた16名の方の認定証授与式及びガイドの会における総会を行いました。総会では、前年度の事業報告や令和6年度の事業計画について説明を行いました。一般向けの講座では、新規にLNT（Leave No Trace）ワークショップという講座を2回取り入れました。更に、昨年に引き続き、ガイド力の向上を図るため、ベテランの認定ガイドから「ガイドのノウハウ」を学ぶ研修の場を設けます。

また、今年度は、苗場山麓ジオパークが日本ジオパーク認定を受けて10周年を迎えることから、10月26～27日（土・日）に大岩根尚*氏をお迎えし、10周年記念講演及び中津川左岸トレッキングを計画しています。開催に向けて中部ブロックのジオパーク関係者にもご案内したいと考えています。

総会後の情報交換会では、多くの質疑応答がありました。インバウンドの旅行客増加に伴う通訳の対応や10周年記念事業について、地域ぐるみで行っている感じをもっと前面に出す努力をしてほしい等々多くの意見をいただきました。

他のジオパーク同様にガイドの高齢化が進む中、弱年層の底上げを図り、ガイドの実働部隊の育成が急務となっています。両町村のガイドに働き掛け、次世代のガイド育成に努めていきたいと考えています。



*前三島村・鬼界カルデラジオパーク専門職員 第53次南極地域観測隊調査に参加、2017年「合同会社むすひ」を立ち上げ、自然ガイドや大学の実習を受け入れ、教育・研究のサポートを続ける



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク認定商品ご紹介～



【おひさまケチャップ】

道の駅 信越さかえ ※こちらでお求めいただけます
〒389-2702 長野県下水内郡栄村北信3746番地1
☎0269-87-3180 営業時間9:00～17:00
定休日：火曜日 オンライン販売：なし



ジオストーリー

長野県栄村は日本屈指の豪雪地帯、その雪の恩恵を受け美味しい作物が育つ土壌を作ります。春に種から苗を育て夏の炎天下の中、完熟したものからひとつひとつ手摘みし、ひとつひとつ丁寧に洗い、絞りピューレにします。保存料は添加せず、砂糖、塩、スパイスなどの調味料を最低限に抑え栄村のトマトの味を思う存分味わえるそのまま食べても美味しいちょっと贅沢なトマトケチャップです。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。

【お問い合わせ】津南町役場観光地域づくり課 電話025-765-5454

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

山岸 祐二さん



手漉き和紙の伝承も自然の恵みから（ガイド No.63 山岸 祐二さん）

私は上郷小学校で約20年間、手漉き和紙の卒業証書作りのお手伝いをさせていただいております。自分で漉いた卒業証書作りは他でもやっているようですが、上郷小学校の様に原料となる楮刈りから、煮はぎ、しかわ取り、皮煮、漂白（雪さらし）、紙漉き、乾燥という一連の流れ全てを体験し卒業証書を作るのは多分他にはないのではないのでしょうか。

毎年、晩秋の初雪が降るころから作業が始まりますが、その前段階で和紙作りの講話と称して紙の歴史や上郷大井平で和紙作りが始まった経緯や理由を子供たちの前で話をする機会があります。

その中で上郷大井平では今から約220年前に長野県木島平村の内山地区から伝えられたこと、明治の初期から昭和にかけて和紙生産者はおよそ24戸あったことなどを話します。

ではなぜこのように盛んに紙が漉かれていたのかという理由として、次の好条件がそろっていたことだったと思われる。それは、①紙漉きに必要なたく清らかな水が豊富にあったから、②紙漉きの原料となる良質の楮が近くで育て入手できたから、③楮の木を蒸したり、皮を煮たりするために必要な薪が安く豊富に手に入ったから、④何より積雪期間が長く、皮の漂白、アク取りに必要な雪さらしが出来たからです。

以上、この条件が満たされた環境こそが和紙作りが伝承されてきた大きな理由であると思います。まさに自然の恵みです。



楮（コウゾ）



楮を刈り取る様子



和紙に校章をはさむ

今でこそ手漉き和紙は衰退しつつありますが、近年ユネスコの無形文化遺産登録されたものもあり、徐々に見直されています。はじめは特に何も深く考えずに手伝っていましたが、色々と調べてみるとこの大地とのつながり、恩恵を改めて再認識しております。

今後も出来る限りこの豊かな自然の恵みのおかげでくらしていることを伝えていきたいと思います。

※上郷小学校と大井平和紙保存会の活動について、『津南学』10号に掲載しています。現在、体験実習館なじょもんでは第2号から第12号までお取り扱いしております。

【津南学の販売に関するお問い合わせ】

農と縄文の体験実習館なじょもん 電話025-765-5511

お知らせ

苗場山麓ジオパーク日本認定10周年

7月13日(土) 9:00~13:00 矢櫃村跡まで探検ツアー 場所:村道長瀬秋山線~矢櫃村跡

8月3日(土) 9:00~13:00 ガイドスキルアップ研修・人気のサイト巡りツアー 場所:龍ヶ窪、沖ノ原ほか



突撃しよう!となりのジオ便り～島原半島ジオパークからこんにちは～（島原半島ジオパーク専門員 森本 拓）

島原半島ユネスコ世界ジオパークは、長崎県にある島原市、雲仙市、南島原市の3市から構成された半島全体がジオパーク認定地域で、半島の中央部には活火山の雲仙火山を擁します。雲仙火山は有史以降3度の噴火が発生しており、特に1990～1995年に起きた普賢岳の平成噴火では、火砕流によって死者・行方不明者44名の災害を引き起こし、災害報道や避難行動のあり方など、当時の社会に強い衝撃を与えました。しかしその後、災害で得た教訓や経験を活かして、島原半島では火山対策の見直しや雲仙岳災害記念館（ジオパーク拠点施設）を代表する火山博物館の整備などが進められ、地域住民が一丸となって力強く地域の復旧・復興を成し遂げてきました。それらの活動が実を結び、2009年8月22日には日本で最初の世界ジオパークに認定されました（同時期に糸魚川、洞爺湖有珠山も認定）。

時に災害をもたらす火山ですが、一方で火山活動により地域住民が暮らしている大地や美しい自然景観がつくられました。火山が育んだ肥沃な土壌では、県下随一の出荷量を誇るじゃがいもや玉ねぎ、そして大根や人参などの多くの農作物が栽培されています。また積み重なった火山の地層を通して湧き出す湧水は、島原で延べ60箇所を超えます。島原は多くの湧水スポットがあることから「水の都」と呼ばれ、湧水を活用した湧水庭園「四明荘」や「鯉の泳ぐまち」など、湧水とともに歩んできた地域の人の暮らしを感じられます。

半島西側から東側にかけて分布する小浜、雲仙、島原の3つの温泉地は、半島西側に位置する雲仙火山の熱源であるマグマ溜まりからの距離に応じて、それぞれ源泉温度や泉質が異なるため、多様な温泉を満喫することができます。これら紹介した火山の恩恵を受けた生活は、島原半島の人々にとって欠かせない「地域の宝」と言えます。

「なぜ人は火山の麓に暮らすのか?」。その答えを島原半島で見て、感じることができます。「人と火山が共生する大地」である島原半島ユネスコ世界ジオパークで皆さんの来訪を心より待つとるばーい!



雲仙火山の麓に築かれた町なみ



湧水庭園「四明荘」



第10回 苗場山麓ジオパークフォトコンテスト作品大募集!

苗場山麓ジオパーク振興協議会では、第10回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの作品を募集中です。

部門は「春部門」「夏部門」「秋部門」「冬部門」「暮らし・生活部門」「祭り・伝統部門」「動・植物部門」「学生部門（高校生以下）」です。※応募者本人未発表の作品に限り、1部門につき2作品まで。

- 画像データでの応募・・・データ容量15MB以下で、830万画素（A4 プリント以上）のJPEG形式のものとします。フォトコンテストWEBサイト（<https://naeba-geo.org/photo-con/>）のMENU内の応募フォームからご応募ください。
- プリント作品での応募・・・2Lサイズの作品の裏面に、フォトコンテストWEBサイトから印刷し、記入した応募票（応募規定のページにございます）を貼付し、お送りください。作品は、返却いたしません。

送付先はこちらまで⇒ 〒949-8201

新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835

苗場山麓ジオパーク推進室（農と縄文の体験実習館 なじよもん内）

ジオフォトコンテスト係



応募フォーム

応募締切・・・2024年12月27日（金）17時（郵送での応募は同日必着）

詳しくは、チラシ、または「苗場山麓ジオパーク」の公式WEBサイト（<https://www.naeba-geo.org/>）をご覧ください。お問い合わせは、苗場山麓ジオパーク推進室・フォトコンテスト係（電話025-765-1600）まで。